（様式2）

2019年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書
（ 中間報告 ・ 最終報告 ）

令和2 年 3 月 30 日

福岡女子大学学長 殿

申 請 者　所属名　国際文理学部 環境科学科
職 名　講師
氏 名　若竹 雅宏　印

事 業 名 （テーマ）	コミュニティデザインの提案を通して学びの意義について考える実践教育プログラム		
事業実施者及び 事業分担者	事業実施者：講師 若竹 雅宏 事業分担者：教授 森田 健	大学院生及び 学外協力者等	有澤建設株式会社 および 同社 佐々木晴子

活動内容及び成果（必要に応じ資料、写真等を添付すること）

※この欄の記載は、大学ホームページ等にそのまま掲載する予定です。

（活動内容）

○活動の目的：本事業は、実空間を対象として行なう実践教育プログラムとしての位置づけのもと、学生が建築設計分野について大学で学ぶ意義を考える機会を提供する事を目的として行なった（詳細は添付資料①の示す）。

具体的には、地域や地元企業が抱える課題から、対象とした集合住宅が抱える課題を特定し、昨今の社会的課題である空き住戸対策として、その問題点と解決策を提示した調査・研究とその対象空間に対するリノベーション提案を学生に行なってもらう2つのプログラムを実施した。また、この実施にあたっては、実空間の調査、社会人とのディスカッション、プレゼンテーションを含めたデザインの提案といった様々な建築設計・デザインの作業を、より現実的な形で経験できる点とその過程において実際の現場を「見て、聞いて、体感する」ことを経験できるといった2点に教育的な狙いを定めることとした。この2点を通して、自身の現時点の力量を素直に認識し、これからの大学生活の過ごし方、授業選択、コースや研究室選択そして卒業論文のテーマ選定などの進路選択について真剣に考えていくきっかけにしてもらいたいと考えた。

○対象地：本事業では、福岡市中央区平尾地区に存在する地上10階建て34戸数のある集合住宅A（添付資料①-写真1）と福岡市博多区山王地区に存在する地上6階建て30戸数のある集合住宅B（添付資料①-写真2）を対象として事業を行なった。

○事業実施の内容：実施の方法としては、①研究と②空間デザインの提案の2つの側面から進めた。

①調査・研究：空き住戸に関する研究は、昨今の都市計画・地域計画上の課題として相応の成果が認められるが、地域的課題としての総論としてその方向性が示されていても当事者はそれを個別解としてどの様に当てはめて考えていけば良いのか難しい側面がある。本卒業研究では、その個別事案に向き合い、そこでの入居者へのアンケート、管理会社へのヒアリングを通して、対象とした集合住宅AおよびBに対する空き住戸対策の方法を提示した。

②空間デザインの提案：事業計画者である若竹が担当する第2Q 3学年「生活環境演習Ⅵ」において行なった。構成は、科目等履修生として2級建築士関連科目を受講している3年生4名に、自主的に参加した2名の2年生を含めた計6名となっている。

対象とした空間は集合住宅Aとし、その集合住宅Aの1フロアに対して提案する形で進めた。

受講者全員による集合住宅Aの見学も兼ねた調査を実施すると共に、実際に管理している建設会社の担当者の方による現状報告から、現段階で顕在化している課題を踏まえてどの様な空間が求められると考えるか吟味し提案へとつなげていった。

また提案には建設j会社の社員にも行なってもらい、学生には自信の提案との違いを肌で感じてもらうと共に、中間発表会や意見交換などを中間時に実施し、自分たちが考えているデザインをブラッシュアップしていく作業を進めていった。

（成果）

本事業の成果として、①調査・研究としては、建築系の会社に就職が決まった学生の卒業研究として、「民間賃貸型集合住宅における空き住戸の発生要因と空間運用の課題」というテーマでまとめ、当該集合住宅の課題を明らかとすると共に、学生にとっては建築の社会的課題について認識し学べる機会となった（添付資料②）。

次に②空間デザインの提案では、学生それぞれから一案ずつの計6つの提案が出された（添付資料③,④）。

提案における地域的課題からの空間デザインのコンセプトについては、「女性がくつろげる部屋」「図書室」「男性のための空間」「学習室」といったテーマがあがり、日常における情報収集の中から感じている学生の等身大の提案が出されたと考える。いずれも空間のリノベーションとして、学生目線による社会性、現実性と非現実性（空想、夢）のバランスがとれた提案がなされた。こういった課題について考え、いずれは実践していくことが、自分たちの時代、更にはその子供たちに残していく都市空間の姿を作っていくことになることを演習中に発信してきた中での学生からの提案であった。学生にとっては建築についての研究やデザイン提案を行なうことは初めての経験であったことから、今後の建築を学んでいく上で、良い経験になったと考えている。

その他、建築設計学研究室の後期ゼミの一環として、対象2案件の敷地周辺の街区模型の制作をおこない、計画提案場所の都市空間の特性をつかむと同時に、今後の提案における土台づくりをおこなった（添付資料①-写真3,4）。

本事業は、長期的展望をもって当該集合住宅に対するリノベーション提案を進めていく予定であったが、先方の都合もあり、リノベーション提案は一旦凍結とし、次年度以降は建築業界におけるSDGsの展望を見据え、その勉強会を行なう中で次の展開を考えていくこととなった（参考URL: https://arisawa.jp/challenge/Industry-academia/）。

福岡女子大学 受 '20. 3. 30 教務企画センター 付

事業費の交付決定額(円)

400,000　円

事業費の決算額(円)(領収書等を添付すること)

398,945　円

事業費の決算額の内訳(円)

費目	品名、仕様など	金額
消耗品費	・街区模型用材料 ・調査,街区模型製作用 住宅地図(福岡市博多区、中央区) ・製図用 トレーシングペーパー ・コピー用紙およびプリンタ用トナー ・文房具(ポストイットなど)	42,790 58,300 7,644 88,210 8,327
印刷製本費		
旅費交通費	・既存建築物調査交通費(福岡市)教員1人×2回(6/11、6/18) ・既存建築物調査交通費(福岡市)学生10人(6/11、6/18、6/29) ・都市計画情報調査交通費(市役所)学生2人(6/17) ・既存建築物福祉施設転用事例調査(川崎市)教員1人(11/5) ・打ち合わせ移動交通費(福岡市)教員1人(R2 3/3,3/23)	1,680 15,920 1,600 31,284 1,740
通信運搬費		
備品費		
その他	・図書費 ・法令集 ・DVD(西岡常一・宮大工関連)	130,974 4,860 5,616
合計		398,945

※費目等は適宜追加・削除すること

2020 年 3 月 30 日

2020 年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書

事業名（テーマ）
コミュニティデザインの提案を通して学びの意義について考える実践教育プログラム

環境科学科（生活コース）
講師　若竹 雅宏

1. 活動の内容

1.1 活動の目的

本事業は、実空間を対象として行なう実践教育プログラムとしての位置づけのもと、学生が建築設計分野について大学で学ぶ意義を考える機会を提供する事を目的として進めた。

具体的には、地域や地元企業が抱える課題から、対象とした集合住宅が抱える課題を特定し、昨今の社会的課題である空き家対策として、その問題点と解決策を提示した調査・研究とその対象空間に対するリノベーション提案を学生に行なってもらう 2 つのプログラムを実施した。また、この実施にあたっては、大きく次の 2 点に教育的な狙いをもってプログラムを進めた。一つ目は、実空間の調査、社会人とのディスカッション、プレゼンテーションを含めたデザインの提案といった様々な作業を通して、建築の設計・デザインそのものに対しての認識を深めていく点である。二つ目は、実際の現場を「見て、聞いて、体感する」ことを経験する点である。この 2 点を通して、自身の現時点の力量を素直に認識し、これからの大学生活の過ごし方、授業選択、コースや研究室選択そして卒業論文のテーマ選定などの進路選択について真剣に考えていくきっかけにしてもらいたいと考えている。

1.2 事業の対象

本事業の実施にあたり協力いただくこととなった創業 100 年を超える地元ゼネコンの有澤建設が保有する 2 つの賃貸型集合住宅（以下、集合住宅 A（写真 1）および B（写真 2）とする）を対象とした。

写真 1：集合住宅 A の外観

写真 2：集合住宅 B の外観

・集合住宅A

福岡市中央区に存在し、天神地区から約3キロの位置にある。築20年程度で、地上10階建てで戸数は計34となっている。

・集合住宅B

福岡市博多区に存在し、博多駅地区から約2キロの位置にある。築44年が経過し老朽化がみられる。地上6階建てで戸数は計30戸となっている。

1.3 事業の実施方法と内容

実施の方法としては、①研究と②空間デザインの提案の2つの側面から進めた。

①調査・研究

調査・研究では、建築設計学研究室の2019年度4年生により卒業研究のテーマとして進めた。空き住戸に関する研究は、昨今の都市計画・地域計画上の課題として相応の成果が認められるが、地域的課題の総論としてその方向性が示されていても、当事者はそれを個別解としてどの様に当てはめて考えていけば良いのか難しい側面がある。そこで本卒業研究では、その個別事案に向き合うことは重要な視点であると捉え、そこでの入居者へのアンケート、管理会社へのヒアリングを通して、対象案件に対する空き家対策の方法を提示した。

②空間デザインの提案

事業計画者である若竹が担当する第2Q 3学年「生活環境演習Ⅵ」において行なった。なお当該事業が関わる授業としては、第3回目の授業から始めた。

授業の対象学年である3年生のうち科目等履修生として2級建築士関連科目を受講している3年生4名に、自主的に参加した2名の2年生を含めた計6名で行なった

対象とした空間は集合住宅Aとし、その集合住宅Aの1フロアに対しての提案とした。

受講者全員による集合住宅Aの見学も兼ねた調査を実施すると共に、実際に管理している有澤建設株式会社の担当者の方による現状報告から、現段階で顕在化している課題を踏まえてどの様な空間が求められると考えるか吟味し提案へとつなげていった。

また提案には有澤建設の社員にも行なってもらい、学生には自信の提案との違いを肌で感じてもらうと共に、中間発表会や意見交換などを中間時に実施し、自分たちが考えているデザインをブラッシュアップしていく作業を進めていった。

授業の実施内容は以下の様である。なお各回のエスキス作業には個別指導に加えて計画上の重要となる様々な建築的要件の整理の方法、提案に関わる発想法および、図面の読み方書き方についての実践的講義を行なった。主なテキストは、宮脇塾講師室編「眼を養い 手を練れ 宮脇檀住宅設計塾」彰国社,2003とした。

※6/7,7/19休講

・第 1回（6/11）ガイダンス他

・第 2回（6/14）大学キャンパス内をサーベイする

（キャンパスの改善点などA3用紙に自由にプレゼンしまとめる 提出:6/28）

・第 3回（6/18）当該事業提案開始　敷地現地調査　敷地調査報告書の作成　提出：6/25

・第 4回（6/21）ブレーンストーミングおよび提案方法に関わる講義の実施

・第 5回（6/25）演習　エスキス作業および図面の作成方法の実技を実施

・第 6回（6/25）演習　エスキス作業　個別指導

・第 7回（6/28）演習　エスキス作業およびプレゼン技法などについての実例紹介

・第 8回（7/ 2）演習　エスキス作業　個別指導

・第 9回（7/ 5）中間発表会

・第10回（7/ 9）演習　エスキス作業　個別指導

・第 11 回（7/12）演習　エスキス作業　個別指導
・第 12 回（7/16）演習　エスキス作業およびプレゼン方法についての講義　個別指導
・第 13 回（7/16）演習　最終提案図作成　個別指導
・第 14 回（7/23）演習　最終提案図作成　個別指導
・第 15 回（7/26）成果発表会

2. 成果

本事業の成果として、①調査・研究としては、建築系の会社に就職が決まった学生の卒業研究として、「民間賃貸型集合住宅における空き住戸の発生要因と空間運用の課題」というテーマでまとめ、当該集合住宅の課題を明らかとすると共に、学生にとっては建築の社会的課題について認識し学べる機会となった（添付資料②）。

次に②空間デザインの提案では、学生それぞれから一案ずつの計 6 つの提案が出された。

提案における地域的課題からの空間デザインのコンセプトについては、「女性がくつろげる部屋（添付資料③）」「図書室（添付資料④）」や「男性のための空間」「学習室」といったテーマがあがり、日常における情報収集の中から感じている学生の等身大の提案が出されたと考える。いずれも空間のリノベーションとして、学生目線での社会性、現実性と非現実性（空想、夢）のバランスがとれた提案がなされた。こういった課題について考え、いずれは実践していくことが、自分たちの時代、更にはその子供たちに残していく都市空間の姿を作っていくことになることを演習中に発信してきた中での学生からの提案であった。4 年次の卒論のテーマとして、この経験を踏まえたものになることを期待したい。さらに学生にとっては建築について研究やデザイン提案を行なうことは初めての経験であったことから、今後の自身の建築を学んでいく上で、良いきっかけになったものと考えている。

その他、建築設計学研究室の後期ゼミの一環として、対象 2 案件に対して、建築模型製作の経験を得ることと計画提案場所の都市空間の特性をつかむことを目的に敷地周辺の街区模型の制作を行なった（写真 3, 写真 4）。

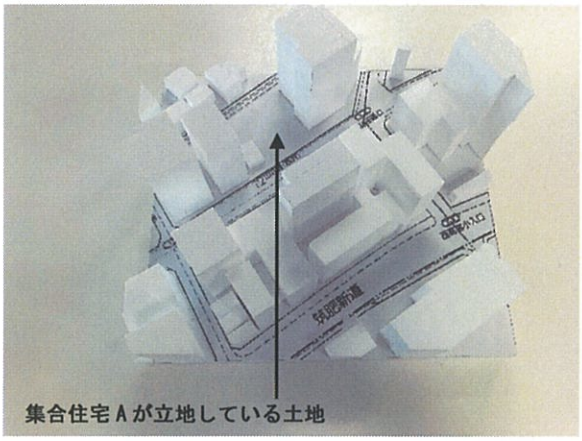


写真 3:集合住宅 A の周辺街区模型

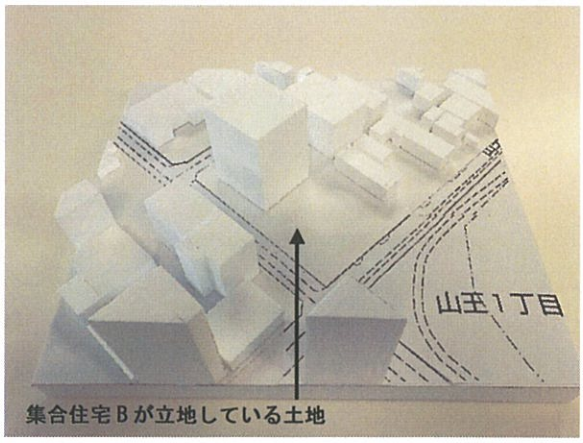


写真 4：集合住宅 B の周辺街区模型

3. 事業計画時に想定した成果等に対する評価

3.1 地元企業との連携について

本事業の協力会社である有澤建設からは、担当者として 4 名および事業の総括者として 1 名の参画があった。

対象案件の所有者側として、どの様な考えをもち、またどうしていきたいのか、その生の声を聴きながら演習課題を進められることに加えて、当事者側にも提案を行なってもらった。こ

れは、学生にとっては自身たちの提案との違い、実務で考える部分とそうでない部分などについて体感するところに狙いがあった。結果としては、有澤建設サイドからの提案は無かったが（出来なかったと判断）、中間発表時などには学生の提案に対して活発な意見交換を行なうことができ、当初の目的（所有者側の意見を聞ける）は実行できたものと考えている。

3.2 事業がもつ3つの特色に対する評価

①実務的経験の中から学生自身の大学での学ぶ意義を考える

本事業は、1.実空間を対象とした演習であったこと、2.実際の建築実務の業務にあたっている建設会社社員の意見も聞きながら、自身が提案した内容が現実に可能かといった視点から評価を得られたこと、3.最終プレゼン作業を通じて、自身が今後どういったスキルアップをおこなっていく必要があるのか、それらについて話し確かめることができたなどが、ここでの学ぶ意義につながったものと考える。デザイン作業の対する単なる憧れからやカッコよさといった類からその業種に進んでみたいと気持ちから、自身が今後やるべき事は何か、社会が求めている人材はどういったものかといったことを併せて伝えられたと思っている。

4名の3年生の受講生は、いずれも4年次は建築設計学研究室に所属予定であることから、本事業を通して建築分野について少しでも理解が深まったものと考えている。

②ポートフォリオ作成支援

建築やデザイン系の学科卒の他大学学生と比べるとどうしても自身の作品が少なく武器なるものが少ないことから、この課題での提案自体が作品の一つになることを視野にいれて、提案・プレゼン作業を進めた。

提出形態は、A3サイズとし、プレゼン方法は自由に表現する形とした。それぞれテーマほか独創性がある中、図面やその表現方法は、初めてということもあり、及第点に届くかといった形ではあったが、プレゼン時に何に気を付けて実践していかなければならないのか、そのポイントは伝わり、それぞれ綺麗にまとめたと考えている。

③「寄り添う力」を養う

寄り添う力の育成を学ぶ意義に加えた理由は、提案には責任が伴うため、これには「つくられる側」の思いに視点を向ける事が重要となり、その視点に注力しながら、課題と向き合い提案を行なう必要があると考えたことによる。

提案した空間が、本当に使われるのか、全体指導、中間発表、個別指導を通じて確認していき、提案時のテーマと空間デザインの提案を進めた。

それぞれ当初提案と比べて、より実践的で社会性で実利にもなる提案となったものと考えている。

4. 今後の課題

調査・研究、デザイン提案の両方において共通している点としては、懸念事項ではあったが、建築的デザインの提案以前に、空間を理解する力、図面を引く力が本学学生には備わっていない実情がある。そこを埋めながら短い期間で研究やデザイン提案といった成果を出す必要があったため、課題にとりかかるまでの建築に関する様々な知識とスキルを備える必要性があることを痛感した。本学の履修科目の関係上、実践を踏みながら短期間で学習効果を得られる授業計画の構築が今後の課題である。

また長期的展望をもって当該集合住宅に対する空間デザインの提案（リノベーション）を進めていきたかったが、先方の都合もあり空間デザインの提案（リノベーション）は一旦凍結とし、次年度以降は建築業界における SDGs の展望を見据え、その勉強会を行なう中で次の展開を考えていくこととなった（参考URL: https://arisawa.jp/challenge/Industry-academia/）。

番号	題名	民間賃貸型集合住宅における 空き住戸の発生要因と空間運用の課題		
40	研究室	建築設計学研究室	氏名	[redacted]

1. 研究目的

総務省の住宅・土地統計調査によると、平成 5 年度は 448 万戸であった空き家数は、平成 30 年度には 846 万戸まで増加している。この空き家数の増加は、人口の減少が進んでいる地域に限ったことではなく、近年の人口増加が認められる福岡市でも発生しており、平成 5 年には 10 万戸であった空き家数が最大で 14.7 万戸まで増加している。空き家の増加は、地域コミュニティの衰退や治安・景観の悪化など多くの問題を併発するため、空き家対策は今後さらに対策が必要となる課題であるといえる。

以上を踏まえ本論文では、集合住宅を対象として、その集合住宅における様々な要因と入居の関係から空き住戸の発生要因とその空間運用に関わる課題について明らかにすることを目的とする。

2. 研究内容

福岡市内に存在する民間賃貸型集合住宅を対象とし、空き住戸の状況等の実態調査、居住者へのアンケート調査、建物管理者へのヒアリング調査を行った。

実態調査では図面やインターネットの情報からは読み取れない日当たり・損傷の程度、周辺の様子などの建物と部屋の状況を調査した。居住者に対するアンケート調査では入居決定時に重要な項目等、管理者に対するヒアリング調査では建物の運営上の課題等について調査した。また、両者に空き住戸活用に対する意見を調査し、それらの結果について分析・考察をおこない空き住戸の発生要因と空間運用の課題について整理した。

3. 結論

調査分析の結果、以下の点が明らかとなった。

（1） 入居時には条件に関する要因を重要視し、物理的な要因をそれほど重要視していない。しかし実際の生活を営む上で発生した物理的な部分に対する改善要求への対応が遅れることが転居の原因となり空き住戸の発生につながること。

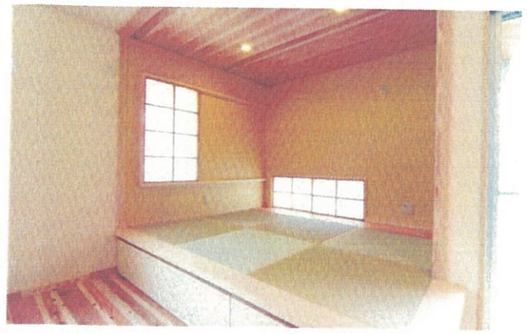
（2） 空間運用の課題については、空き住戸の発生に関わらず、①建物における課題意識を共有すること、②空間運用の課題に対して具体性をもって取り組むことが重要であること、が明らかとなった。また、空き住戸が発生した場合は、③居住者の入居決定に関わる優先順位から見直していくこと、④空間用途を変更して活用することにおいて賛成でも反対でもない中立意見の居住者の賛同を得る努力が必要なこと、の 4 点が特に重要であることが明らかとなった。

心からくつろげる女性のための部屋

晩婚化や未婚率の上昇により、女性の1人暮らしの割合は増加しており、かつ福岡市は女性が多い街ランキング1位で、女性のための住宅の需要は高いと思える。
また、本集合住宅の位置する平尾地区は天神・博多からのアクセスも良く、更に犯罪件数の少ない地域である。
これらの背景より、女性のための部屋を考えた。
中央に位置するウッドデッキからの各室間への自然光とくつろぎを与える和室、無駄のない動線を意識して、快適で心からくつろげるデザインを目指した。

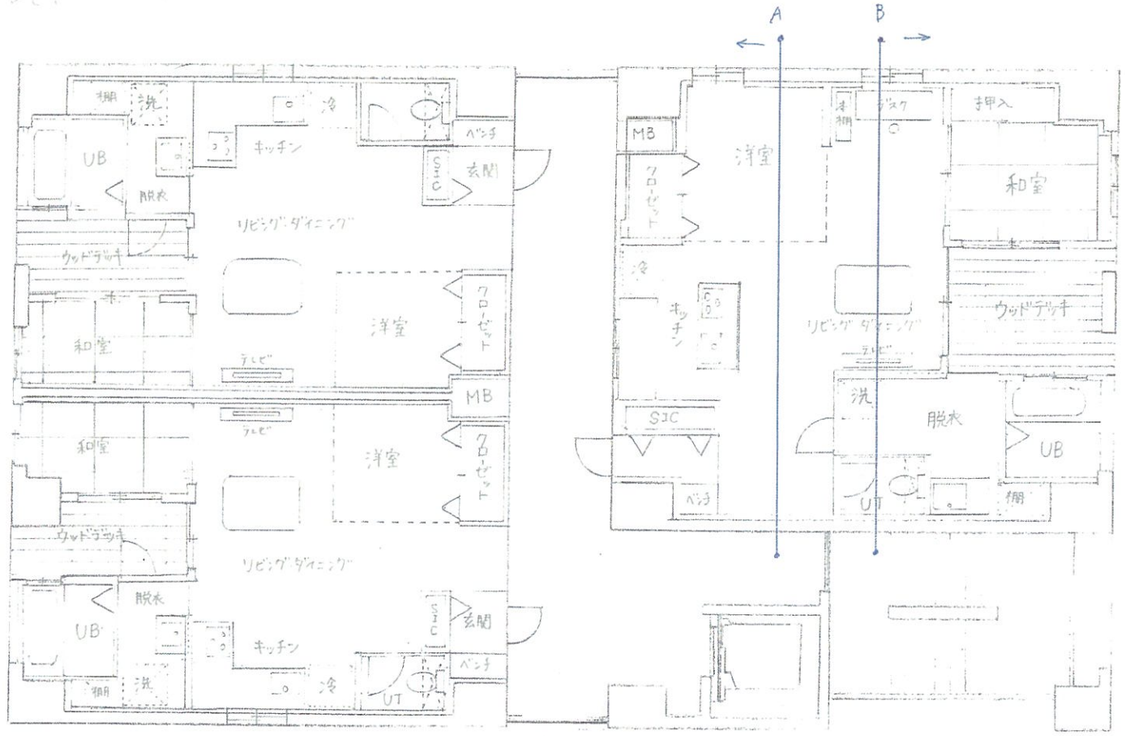
和の空間

ちょっと横になりたい、そんな時にすぐにくつろげる和室。ウッドデッキにも面しており、二面採光で明るく開放感が得られる。リビング・ダイニングからは小上がりになっており、小上がりの部分は引き出し収納になっている。



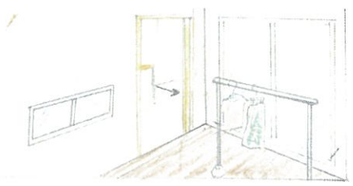
基本情報

- 女性専用マンション
- 3階～10階は全て同じ設計
- 2階部分には住民専用のジム、コインランドリー(コイン)を準備
- オートロック
- 1フロア3部屋で角部屋



ウッドデッキ

横に広がったバルコニーを中央に寄せたことで、リビング、和室、脱衣所、浴室に自然採光を取り込むことができる。
脱衣所から直接、屋外に出ることができるため、洗濯時の動線も短縮できる。
浴室に設置された窓により、バスタイムが更にリラックスできる空間になる。
BBQなどを楽しむこともできる。



1ページ

自由な空間づくり

洋室とリビング・ダイニングの間には引戸間はとりを使用。扉を開放して大きなワンルームとして、来客時のプライバシー確保やゲストルームとしても利用できる。

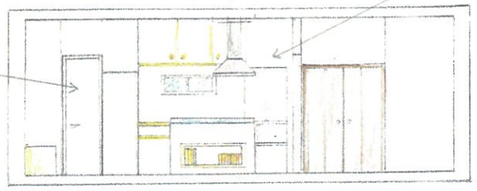
玄関 イメージ図

シューズクローゼットの扉には
鏡がついており、外出の際、
チェックできる。
また、靴の脱ぎ履きや物置きに
便利なベンチを設置している。

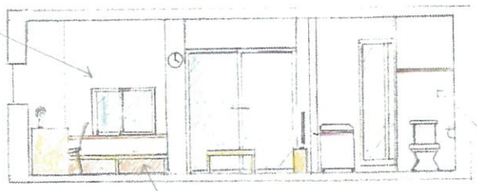
キッチン イメージ

開放的な空間であったキッチンは、
調理場と収納を十分に確保することで
使いやすくし、窓を設けたことで
開放感が得られる。また、キッチンは
部屋の中央に配置することで、気軽に
料理できる部屋にした。

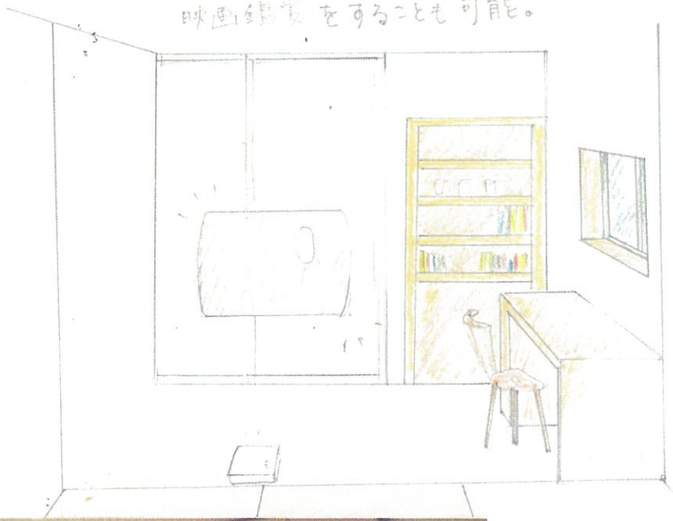
A



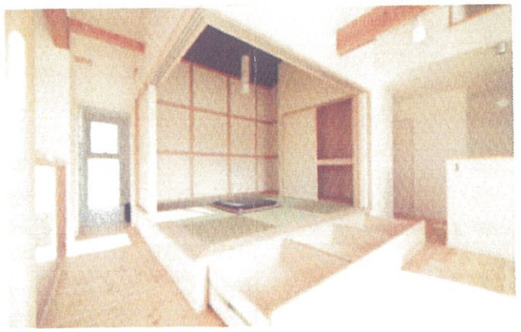
B



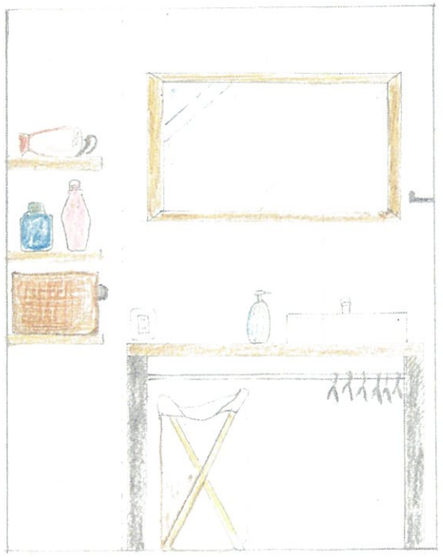
和室から浴室側の可動間仕切りを見た図
間仕切りをスクリーンとして
映画鑑賞をすることも可能。



小上がりの和室ともに広い収納イメージ



洗面台 イメージ



洗面台はメイクやドライヤーなどが
しやすいようにスペースを設けた。
洗面台の下には洗濯用のバスケット
カゴが置けるようにした。

平尾の図書室

〈人口構成（平尾4丁目）H27〉

0-19	364
20-39	842
40-59	698
60-74	290

〈背景〉

平尾には、15－64歳の人々が多く住んでおり、まちづくりの焦点は主に15－64歳の人々に当てられる傾向にある（現地調査より）。また、平尾には図書館がない。

→ 小・中・高校生や高齢者を中心とした人達のための空間を提供したい

。新聞エリア

新聞は場所をとるので通常の机では読みにくい。新聞閲覧机を設ける。

。縁側

畳を取り入れることで癒しの空間をつくる。大きな窓とガラス張りの壁を使用することで開放感を出す。外の窓や空気を感じられてリラックスのできる場所に。雨の日でも過せる。

大きな窓（開閉可能）

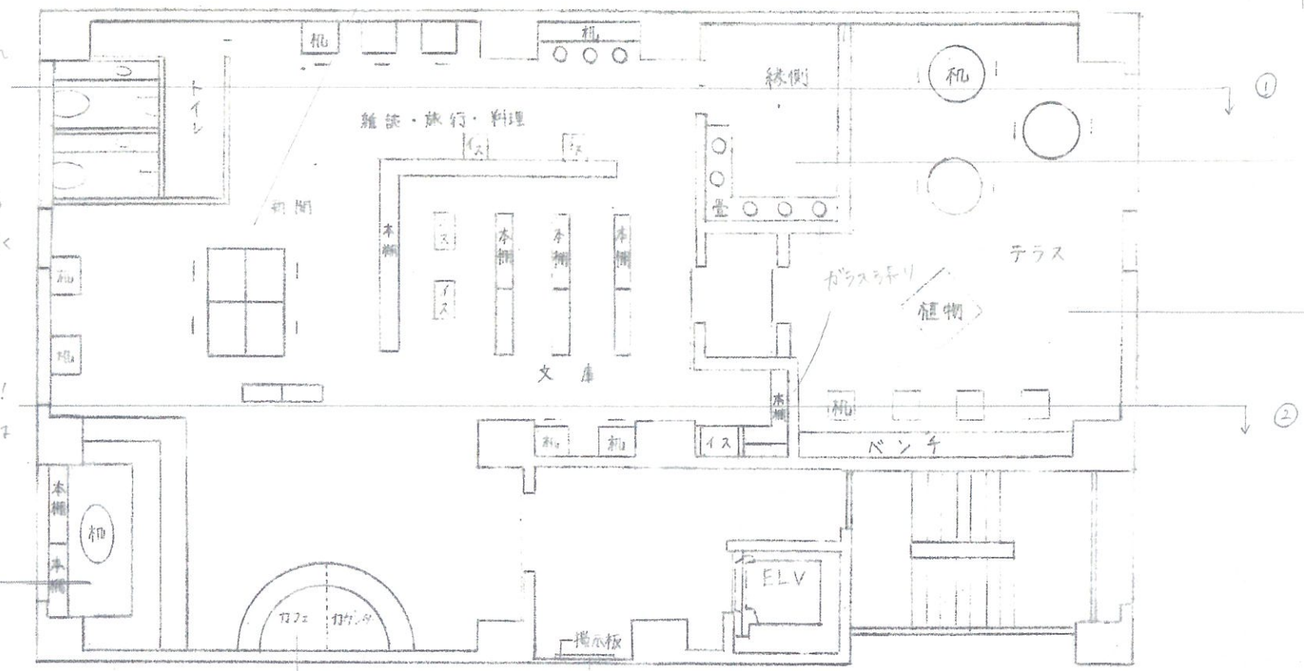
～ 長居したくなるような居心地の良い場所 ～

一般的な図書館では、飲食・私語は厳禁。

デメリット ⇨ 少しの物音や話し声でも気になる
飲み物をわざわざ外まで飲みに行くのは面倒
眠たくなる
窮屈である　など…

つまり、集中力も続きにくく長居はできない！

そこで、平尾の図書室では、従来の図書館とは異なった形式にとらわれない空間に。



。ステージ

入り口から入ってきて、すぐに目につく場所に配置。

「何の本が面白いのか分からない…」など本選びに困った人のために話題の本、オススメの本、本屋大賞など受賞作品、映画化作品などを展示。後ろの本棚にはそれらのバックナンバー。

。カフェ

1日中図書館で過すことができるように、ちょっとした軽食やドリンクを購入可能。館内は飲み物OK。食べ物はテラスでのみOK。持ち込みも良い。

。掲示板

平尾でのイベント情報や本の新着情報などを掲示。

。テラス

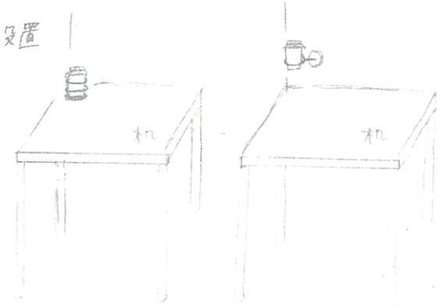
1日中図書館で過すことができるように昼食をとったり、気分転換ができるようにするためのテラスを設置。テラスの中心にはシンボル的な木などの植物を植える。机もあるので外で勉強することも可能。ウッドデッキ。

。ドリンクホルダー

平尾の図書室では飲み物が許可されているが、大切な本や私物を汚してしまわないように館内のイスや机が設置されている箇所にはドリンクホルダーを設ける。

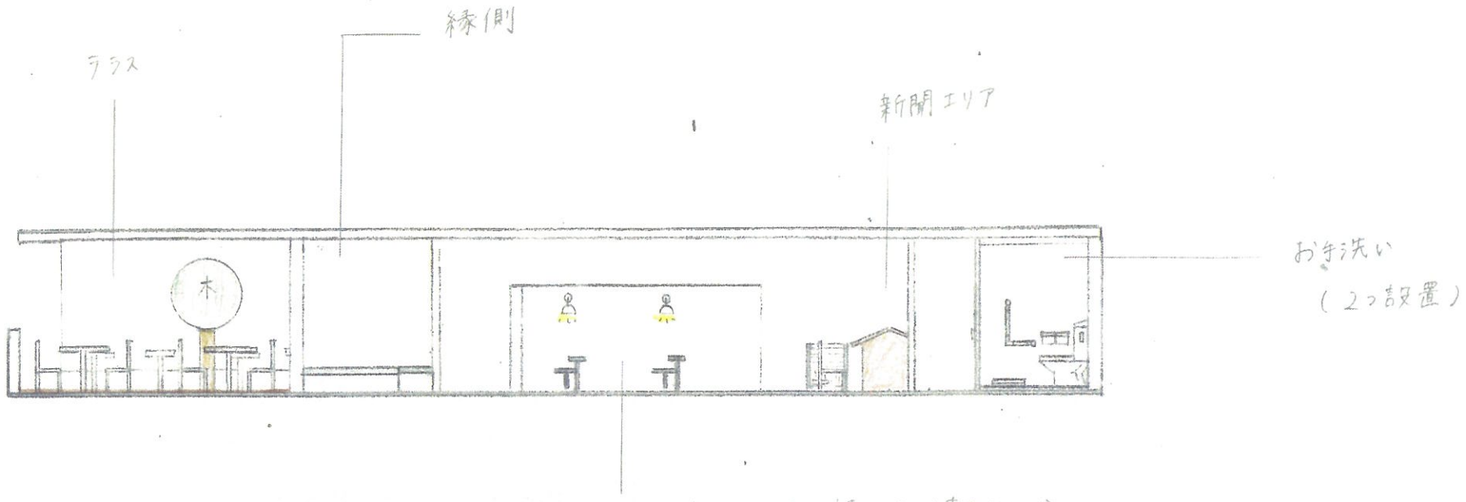
■壁設置

■床設置



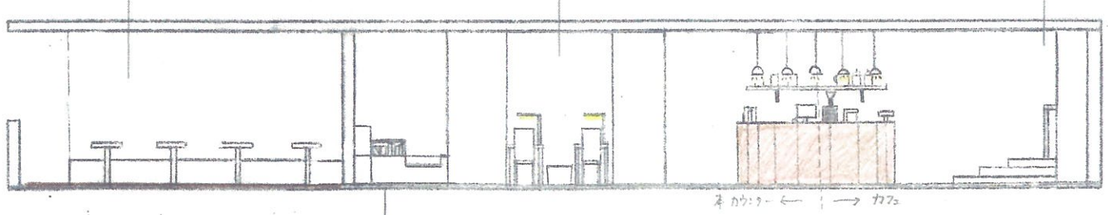
17環境071　渡部 七海

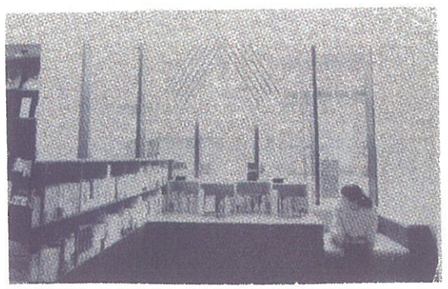
①



気になる本，読みたい本をいくつか
持ってすぐに読むことができるように
本棚の裏に1人と小さいれを設置。
本棚の裏なので人も頻繁には通らず，
落ちついて集中して読書ができる。

②





本棚のすぐ隣に広めのイスを
設ける。本を選んで気軽に
読むことができる。目線に合
わせて本棚は低めのものを。
中央にカゴを2つ置いて荷物を
入れることができるようにする。

気軽に立ち寄ることが
できるように円形のテーブル。
半分で機能を分けて カフェと
本のカウンターにする。入り口に
最も近く，来館した人を一番
に迎えられるように。

17環境071　渡部　七海